

令和4年度 第1回豊中市生活支援サービス部会 議事録

令和4年(2022年)9月20日(火)

午後2時～午後3時10分

くらしかん3階イベントホール及びWEB

《出席状況》 豊中市生活支援サービス部会員5名中5名出席

豊中市生活支援サービス部会

◎大野委員、秦委員、今井委員、村上委員、樋口委員

(◎=部会長 委員名簿順)

事務局

福祉部：甲斐次長兼地域共生課長

長寿安心課：北村課長

長寿社会政策課：山岸課長、森本課長補佐、函師主査、溝田主事、中根

豊中市社会福祉協議会：勝部室長、佐藤課長

《傍聴者》1名

□議題

(1) 令和4年度生活支援コーディネーター活動報告について

(2) 住民主体サービスの運用の見直しについて

(3) その他

□議事内容

事務局 定刻になりましたので、令和4年度第1回豊中市生活支援サービス部会を開会いたします。

本日は、お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。

本日の出席状況を報告いたします。

部会員5名、皆様ご出席いただいております。したがって、要綱で定める部会員数の過半数を超えておりますので、本日の会議は成立しております。

【WEBの説明、資料確認】

部会長 それでは、令和4年度の第1回生活支援サービス部会を開催したいと思います。

まず、議題の1に入らせていただきます。生活支援コーディネーターの令和4年度の活動報告について、事務局よりご説明をお願いいたします。

議案1

■令和4年度生活支援コーディネーター活動報告について

事務局

【資料1】「令和4年度（2022年度）生活支援コーディネーター活動計画」

【資料2】「生活支援コーディネーター実施内容（R4.4～8）」

「R4年度 コミュニティソーシャルワーカー 生活支援コーディネーター活動状況」

部会長

今のご説明につきまして、何かご質問やご意見がありましたらお願いいたします。

本当にいつもながら、いろいろと多様な取組みをコロナ禍の中でも工夫しながらしていただいているというのがよく分かって興味深いと思いましたが、皆さんからは何かございませんか。

具体的な活動のことでご説明の中にありましたら申し訳ないのですが、「おれんじカフェ」ですが、いろいろなところと連携しながら活動されていて、その連携先によってもまた違うと思うのですが、大体定期的に開催されているところのほうが多いのかとか、あるいは不定期なのか、大体1年にしたら何回ぐらいされているのかとか、そのところを教えてくださいませんか。

事務局

場所は地区の会館を使っているところ、個人宅を使っているところ、それから福祉施設の場所をお借りしてやっているところ様々ですが、個人宅の場合はコロナの感染が広がっているとき、お庭を使わせていただき活動していましたので、ご家族にご心配をお掛けするので取りやめるような方向にも進めていますが、月1回でもかなり変化がありまして、途中で骨折があったりフレイルも随分進んだりしていました。歩いている気持ちで歩いてみたら階段を踏み外して転んだり、本当にこの半年の間でも利用者の方々かなり変化があるなというところを実感しているところです。

地区によって、ご家族と一緒に来られて家族会みたいな形で実施をする、「おれんじカフェ」もあれば、単身の認知症の方が多い地区なんかもあって、ご本人だけが来られるということで、スタッフとボランティアの方や介護者の方たちが一緒に参加するということもありますけれども、そういった家族さんが中心になって集まる場所と当事者が楽しめる場所、幾つかに分かれて楽しめるような企画もしておりますし、ご本人が来られているということでしたら、ご本人を中心にした交流をするというような形で、それぞれ特色があります。結構皆さん卓球が好きな方が多く、卓球での交流を「おれんじ

カフェ」対抗でやろうとか、それから「豊中めぐり」で今、お芋ができていますので、昨年も少し実験的にやったんですが、「おれんじカフェ」のメンバーも誘って芋畑に来てもらい、芋ほり等を楽しんでもらうというようなこともできるかなと、考えています。

部会長

なるほど。コロナ禍でもずっと月1回ですか。そうしましたら年にしたら10回以上ですよ。それぐらいやっていらっしゃるといのもすごいなと思いますし、それからまた参加者の特性といいますか、介護者の方がいらっしゃるところ、そうじゃないところで、いろんな形態を結構柔軟にされているなというのも分かって面白いなと思いました。

あともう一点、朝食を子供たちに提供しているということですが、これは既存の子ども食堂さんが朝御飯までサービスを広げてくださったという考え方でよろしいですか。

事務局

校区福祉委員会という豊中市では小学校区ごとで第3層になるのですが、小学校区の福祉委員会の中で今朝食が始まっています。NPOや子ども食堂をメインにしてやってらっしゃるグループというのは、これまでもたくさんあったんですが、校区福祉委員会のほうも朝食を目指していて、高齢者なので朝は苦にならないということで、結構たくさんそういった場面で協力してくださる方が出てきて、学校が始まる前に7時半ぐらいから8時10分、15分ぐらいまでの間で、多いところは40人ぐらい来ています。御飯を食べて、そして交流する。夏休みもそういう形で続けられて、そこでは御飯を食べた後、勉強して帰るといったこともやっているの、世代間交流を通じて介護予防になっていくみたいなことを実践していただいているところがあります。

校区福祉委員会とコミュニティソーシャルワーカー、それから学校というのは従来からずっとネットワークがありますので、心配なお子さんなんかは学校のほうから朝連れてこられるような形で連携していただいたり、随分ネットワークが広がったかなといったところですよ。

部会長

そうしましたら、従来どおりNPOとかがやっておられるようなところだけではなくて、校区福祉委員会のほうでもされているという感じですよ。結構食材とか費用がかかるとは思いますが、どのようにして対応されているのですか。

事務局

食材に関しては、社会福祉協議会がフードドライブでの市民の方々からのご寄附、それから光洋さんやダイエーさん、生協さん、いろんな企業さんからもフードロスにならないように、子ども食堂、こども宅食などに対してのご寄附をいただいております、そういうものを当てて提供しておりますので、生鮮食品は多少は不足することはありますが、自主財源や全般の助成金の中で対応していただいているということで、ほぼ赤字になることなくやっております。

部会員

第1層から第3層までずっとされておられるので、参加される方も徐々に増えてきているような環境で、運営する側のマンパワーが求められてくるというか、ソーシャルワーカーさん以外で、例えば地域で活動されているボランティアさんとか地域活動、社会参加されておられる方々なんかも参加できるような形になってきたりしたら、広がりが出てきて面白いのかなと思ったんですが、地域の参加みたいなのはどうなんでしょう。

事務局

第3層は全部住民だけで活動しています。全部住民が主体でおこなっているの、企画も運営も第3層の人たちはやっています。第2層で育成した人たちは、今いろんな活動メニューに参加するというような形で、その人たちも住民主体化させていくためには、地域の活動、第3層のところで活動してもらえるように位置づけていくようなことも行っているということもあります。それから、「豊中めぐり」なんかは、もう完全に自主活動をしていますので、いろんな企画をして事業の仕掛けづくりをしていくというのが、どちらかというと生活支援コーディネーターの役割で、毎回行かないとできないような事業というのはあまりないというか、それをできるように持っていくという、住民主体の活動に持っていくというのがほとんどです。どちらかというと、いろんな事業をおこなうとき、チームを作って実行部隊を組織して、その人たちが回せるように対応していくというような形です。「おれんじカフェ」なんかも、もちろん顔出しをしますけど、行かなくてもメンバーで回せるような感じにしているというのが現状です。

部会員

広がっているような感じなのですね。

事務局

はい、だんだんに広がっていますので、ぜひ来てください。

部会員

はい。

部会長

ありがとうございました。

ほかに何かご質問などございますでしょうか。

部会員

「豊中めぐり」を見せていただいて、頑張っているなといつも思っているのですが、まだまだ家の中に籠もってらっしゃる男性の方が多いんじゃないかなと思うので、高齢の方で、特にアクティブなことだけじゃなくて、例えばこの間新聞で見たんですが、東北のほうで震災の後のコミュニティづくりということで、楽しくマージャンされたり囲碁をされたり、そういう会をされているみたいで、小学校で学校祭りとかしたときも、地域のお年寄りが来られて、昔遊びや囲碁や将棋をしてくださる機会が多かったので、そういうのもあったら余計集まりやすいのかなという気がしました。じゃあどこが誰がやるねんと言われるとよく分からないのですが、そういうのもあったらいいかなと思いました。

部会長

ありがとうございます。

そのあたりはいかがでしょう。

事務局

囲碁をやったり将棋をやったり、例えば老人憩いの家とか老人センターみたいなところでは、もう本当に取り合いになって頑張ってやっていらっしゃる人たちもたくさんおられますが、私たちが今考えているのは、自分が楽しんで、かつ、人のためにさらに活動できたときに、役割を持って社会貢献できたときにすごく主体的になってくるというのがあるので、野菜作りをしてその上で人を助けるということをセットにしていると元気になって、野菜作りだけだったらしんどいとかありますが、そこに何かそれを子ども食堂に届けるとか野菜収穫体験をもらおうということをやると、より主体性が出てくるということで、そのあたりをいろいろと考えながらやっています。

例えば「おれんじカフェ」でもマージャンをやっておりまして、そこで認知症の人と一緒にマージャンをやるということになると、何か役割が出てくるみたいなことがある

ので、力を持て余していらっしゃる方はたくさんおられると思いますので、今、委員がおっしゃっているような何か参加できる形を、もうちょっとコロナが収まったら、幾らなんでも今何かやってくださいと言ったら止めなあかんの繰り返しだと思いますから、なかなか思うように広げていけなかったんですが、とても大切な視点だと思うので頑張っってそういうのも取り入れていけたらと思っています。健康マージャンはすごく流行っているんですね。ありがとうございます。

部会長

参加するご本人が楽しいから、さらに次のステップで自分の楽しい活動が人につながっていくというところですね。ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

部会員

コロナ禍の中ということだけではなくて、本当に住民主体で地域との関わり方、地域の関わりに結びつけておられるというのは、本当に毎回すばらしいなと思って聞かせていただいております。私、社会福祉のほうの立場ですので、そちらも感じておられることだと思うんですが、社会的な孤立ですね、そういったところの関心がすごく高く、ローラー作戦も聞かせていただいている本当にすばらしいなと思うのですが、1件ずつくまなく回っておられるという。私とその昔ホームレスの支援を行っていたとき、やはり移動されておられるので、昼間の時間帯、定時の時間帯にいらっしゃるとは限りませんよね。そんなところで、例えば時間の工夫みたいなことも当然されていると思うのです。

地域の住民の方だけでなく、別の資料で外国人の社会的孤立のことも拝見させていただきましたが、まさにそのとおりだなと思っておりまして、そういった地域の中あるいは生活の中で課題を抱えておられても、なかなかいろいろなところにつながらなかったり、言う場所がなかったり、ピアサポートはあるけれどもそれだけです。論点がずれるかもしれませんが、1LDKのトイレ1つのお部屋に6人ぐらいで共同生活されているというのも珍しくないわけで、そして地域との関わりがなかなかうまくいっていない部分もあったり、そういったところで生活支援をされているコーディネーターは多文化、ソーシャルワーカーの視点もお持ちですし、住民とは違った専門性みたいなものを持っておられると思うんですね。そういったコーディネーターに、例えば孤立している人がいるよといった情報につながるような、仕組みとして大切だなと思っておられることがあれば教えていただきたいと思います。

事務局

社会的孤立で、特に外国人の問題、それから若年齢の若者たちの支援とか、それから今回貸付けなどで対応した人たちの中には、一般家庭で家族がいてというようなご家庭の中にも困窮された方がたくさんおられましたので、従来の福祉の対象みたいに思われがちな人とはまた随分違う方々がいらしたのが現状でした。今、委員がおっしゃっていたところでいいますと、外国人の方々に関しては豊中に6,000人ぐらいおられるということになっておりますが、ふだん、例えば地域活動をいろいろやっても、ほとんど出てこられないことがないし、昨日も台風がありましたが、避難所を開設しても外国人の人が行っていないのか分からないみたいなことがたくさんある中で、従来の方法論ではなかなかつながっていかないということを随分実感しているところです。

コロナ禍では、例えば技能実習生のおられる、サポートをされているような団体と連携をさせていただいたり、それから夜間中学とも連携をして、そこで先生方を通じてご相談を受けられるような体制をつくっていったり、それから技能実習生の人たちの生活を支えておられる大家さん等とも連携をさせていただいて、そういう若者たちと一緒にフットサルの試合をやったり、顔が見える関係をどうやっていくかみたいなことを進めてまいりました。

現状では、その中でもいろいろ課題を大きく持っていらっしゃる方々の中には、アウトリーチで宅食というお弁当を届けながら日常的につながるといったことも行っております。なかなか本当に声を上げにくい、一番厳しいところの課題だなと思っていますので、ソーシャルワーカーとしては一番取り組まないといけない点の一つかなと感じております。

部会長

ありがとうございました。他にはございませんか。

それでは、議題の1につきましては、これで終わりということで、続いての議案に進めさせていただきます。

議題2は住民主体サービスの運用の見直しについてということで、事務局よりご説明をお願いいたします。

議案2

■住民主体サービスの運用の見直しについて

事務局

【資料3】「住民主体ささえあい（サービスB）の今後について」の説明

部会長

こういった活動を定期的きちんとやっていくというのは非常に大事なことでありますが、コロナということもありますし、参加する側も、それから運営を息長くやっていく側からしても、週2回以上というのは負担が多いところがあるということですよ。フレイルの防止もありますからね。

事務局

実は現在も週1回の体制ですが、ソーシャルディスタンスということで、今まで1回やっていたものを2部制にしたり、あるいは3部制に分けたりしながら人数制限をしているか、あるいは大きい会場を借りるといったことも工夫しながらやっているのが現状です。ですので、2回に増やすということになると、4回やらないといけなくなる、6回やらなければいけないということになりかねないという現状がありまして、同じ6回とか4回やるのであれば、今はもうお断りをして、新しい方、新規の方、会場の関係で参加していただけない方も、待機みたいな方が出てきておりますので、その方々を優先して、新たな1回目として参加していただくことをメインにしたほうが、一部の方だけが2回、ずっとやってお元気になられて、それ以外の方はみんな待機というようなことになるよりはいいかなということも趣旨としてありますので、付け加えさせていただきたいと思います。

部会長

同じ方が何度かするという、この週2回というところに縛られると、そういうことが起きてしまうけれども、やっぱり大切なのは広く希望者に参加をしてもらう機会を提供していくということですね。

私の感想としましては、もう非常にご苦労しながら開催しておられると思いますし、続くコロナ禍でフレイルなどが心配な方というのは一層広がっていると思いますので、

門戸を広げて、現状に合わせて柔軟にやっていただけることであれば大賛成じゃないかなというのがシンプルな感想ですが、皆様も同じような感じでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

そうしましたら、この議題2につきましては、事務局のご説明につきまして皆さまもご同意していただいたということで、よろしいですかね。

そうしましたら、本日の議案は以上となりますが、事務局から何かございますか。

議案3

事務局
部会長

■その他

【説明】

ありがとうございました。

それでは、以上で本日の生活支援サービス部会を終了させていただきたいと思いません。